23年度

パドラーズトピックス－18

緊急支援から中期支援に　陸前高田第一中学校仮設住宅からの報告

8 月 3 日に陸前高田第一中学校仮設住宅にアンケートをとりましたがその時の報告書を国際教養大の神さんがまとめてくれましたので報告させていただきます。

報告書
陸前高田避難所・仮設住宅ニーズ調査
2011 年 8 月 3 日（水）

日時：　2011 年 8 月 3 日
場所：　陸前高田第一中学校（避難所・仮設住宅）
目的：　ニーズ調査に関するアンケートの配布
記録者：　神洋子

1．　避難所（中学校体育館）

避難所はすでにほとんどの方が仮設住宅に移動しており、残っているのは 30 世帯程度だった。お話しを聞かせてくださったのは鈴木静枝さんという方で、2 日後の 8 月 5 日にご主人と仮設住宅（同避難所からは少し離れた場所）に移動予定とのことだった

【鈴木さんの話】

震災時は、自宅が山のふもとだったため、津波が来るのを見てご主人と崖をのぼり中学校に避難した。以来 5 か月間避難所生活である。

被災者は、ボランティアに無償でサービスを提供してもらうことに慣れてしまっており、自分で何かをやる気力が起きないでいる。

- 若い人がボランティアに来るのであれば、お年寄りや一人でいる方を対象に「お話しボランティア」がよいと思う。震災の体験を語るというよりも、若い人の話が聞きたい。
- 男性の一人暮らしは、仮設住宅に移ったら孤独になってしまうのではないかと心配である。
- 移動先で一からコミュニティを作っていくのは大変で、多少ストレスを感じる。
- 仮設住宅に移ると、必要なものは自分で買わなければならないので、車がない人やご主人が仕事で使っている人は買い出しが大変になる。
- 第一中学校の仮設住宅には毎週火曜・日曜に、盛岡のイオンが移動販売に来ている。
- 移動先の仮設住宅は 25 世帯程度の小さなところだが、食料の移動販売は来ているようだ。
- 冬服などの物資はもらったものがたくさんあり、間に合っている。
- 仮設住宅に移ったら、衣装などをしまう収納グッズがほしい。
- 買い物ボランティアなどはありがたいが、自分の目で商品を見て選べたらよい。
- 買い物ツアーがあったら気晴らしになるし、自分でほしいものが選べてよい。

2．　仮設住宅（第一中学校グラウンド、148 世帯、班長 3 名は当日不在）

避難所本部「絆の丘」のボランティア佐々木敏道さんのご協力で、アンケート用紙二枚つづりを 150 部印刷し、全世帯に配った（主にポスティングで、ご在宅の場合は簡単に主旨を説明し、お話を伺った）。

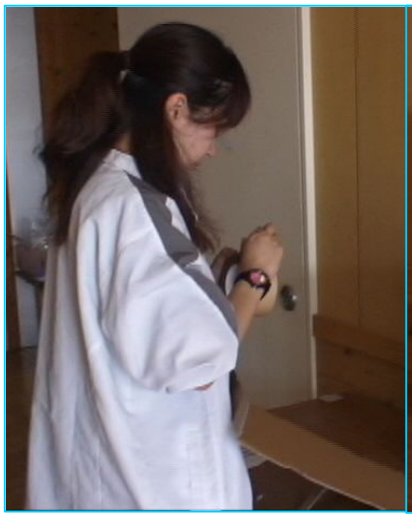
回収は、8 月 8 日までに本部に設置したポストにご投函いただき、9 日・10 日に回収にむかう予定である。このようなニーズ調査のアンケートが第一中学校で行われたのは初めてとのことだった。
約三分の一のご家庭はご在宅だったが、ポストに郵便物がたまっている家も多かった。また、情報を求めて、ボランティアに対して積極的に話しかけてくれる方が多かった。

【仮設住宅の方から伺った話】
・車が一台しかなく、昼間はご主人が仕事で使っているため、自由に買い物・移動することができない。
・冬服が不十分（量が足りない・薄い）なので冬を越せるのか不安である。
・理容・美容室が出張で来てくれたら助かる。

3. まとめとアイディア
【問題点1】交通手段がない（理由：車がない・一台しかない・運転できない・外に出る気力が起きない）
－カーシェアリング
－移動販売や理美容の出張サービス
－お買い物ツアー（お買いものボランティアはすでに実施されているが、自分の目で選びたいという要望があった）

【問題点2】仮設住宅でのコミュニティ形成が難しい（理由：女性に比べ、男性の一人暮らしは孤独がちになる、新しいコミュニティを作ることへのストレス）
－陸前高田市社協では、定期的に「お茶っこ飲み会」という住民同士のコミュニケーションの場を提供している
－若いボランティアがお話を聞きに・話しに行くお話しボランティア

以上



アンケートの回収箱を中学校の本部横に置かせてもらい、8 月 10 日に Get Backs の渡辺さんに回収してもらいました。

今回参加した学生さんたちは多くのことを学び、自分でやることが見つかったようです。

ご苦労さまでした。